

# 第1回まち・ひと・しごと戦略茶話会発言要旨

日時	: 平成27年7月27日(月) 19:30~21:00
場所	: 社会福祉センター
テーマ	: 起業・企業誘致
参加者	: 15名(それぞれの分野で活躍している若手中心のかたと市職員)

## 1. 話題提供

資料を基に話題提供

## 2. 意見交換

司会者: それでは、まち・ひと・しごと戦略茶話会を始めます。

参加者: コワーキングスペースという言葉を知っている人はいますか。私はコワーキングスペースを1年半運営しています。古民家をお借りして、企業や個人が仕事をしたり人と交流できる場所として利用してもらっています。1日500円でネットも使えて電源も使えます。ここには、湖南省で起業したい人が結構集まっています。

ただ、起業しても湖南省で仕事になるのか。また、自宅しかないから場所を借りてやるビジネスができない。情報がネットに載ってない。市役所に行ってもどこで情報を仕入れたらいいのか分からない。だから、スタートすることができない、という人が多い。

今、1年半やって、そのつながりで、古民家を無料で貸してもいい、というところが4軒ほどあります。週末起業という形で20代から40代に貸し出して、リスクがない形で進めてみるのは面白いと思います。

課題は、情報がないこと、あるいは見えにくいことです。

司会者: 起業したいと思っている人数はどれくらいいますか。

参加者: 湖南省の人は4人で、市外の人の方が多いです。1人は湖南省の会社を辞めて、起業の準備をしている。2人目は、辞めたいが家族もいるので辞められない。3人目は大学生で、就職するか大学を辞めて起業するか迷っている。起業したいが、親の目やお金を稼げないのではと不安がある。私はニッカン湖南省というWEBサイトを運営していて、そのライターを1万円ですべてしているので、それをきっかけに起業してみようという動きがでてきています。が、多くの方は、情報がないある

いは見えないために、踏み出せないのが実情です。

参加者： 僕がその4人のうちの1人で、今は市外に勤めています。こちらで知り合いができて情報交換をして何とか起業しようかと思っています。

司会者： 起業をするためのハードルがありますか。

参加者： 何をどうしたらいいのか分からない。勉強しようとインターネットで探しても、商工会議所が年に1回か何年に1回しかセミナーを開催してない。情報も勉強の機会も少ない。

司会者： 情報を得るのは、主にインターネットですか。

参加者： そうです。いきなり市役所に行っても、起業と言うと頭から否定されるような気がします。インターネットで調べたり、市のイベントで出会った人から情報をもらったりします。

参加者： ほかの自治体でも似通った状態です。うちが提案したいのは、個々の金融機関や市役所、商工会議所に集まる情報のプラットフォームをつくって情報の一元化して、見える化をしてはどうかということです。

人口規模がほぼ一緒の石川県の七尾市の事例です。「ななお創業応援カルテット」を、七尾商工会議所、共栄信用金庫、日本政策金融公庫、七尾市で結成して、業務連携して地域プラットフォームをつくっています。これで情報の共有を図って、4者が一体となって起業の相談を受けて創業支援をする仕組みを作りました。

これによって、市役所に行くと、「それは商工会議所に聞いて」。商工会議所に行くと、「それは、金融関係は銀行か金融公庫の話です」と言って終わっていたのが、それぞれの機関の一人ひとりが単なる仕分け屋ではなくて、その人が何をやりたいのかをこの4者が一体となって、掘り下げて対応していけるようになりました。ですから、七尾市の人口は毎年減っていますが、創業は増えています。湖南省も、同様に、各機関の持っている情報を一元化して、創業したい人に十分に情報が提示できる相談体制をつくらなくてはいけないと思います。

気になるのは、昨年1年間で、湖南省で創業した人は4%しかない。高島市と同じ。大津市は約30%ある。それもネイルサロン、学習塾、クリーニング屋さんという湖南省でも成り立ちそうなサービスを他市町村で行っている。これは、湖南省に情報がないからどこで創業していいのか分からない。結局、草津の情報会社の創業セミナーに出て、草津市はいいから草津でやろうかということになる。

大津は、人がいるから何とかなるだろう、と始める人が多いのかもしれませんが。

司会者： 創業したい人が必要な情報を収集する必要がありますね。

参加者： 貸してくれる古民家はどこにあるのか。家賃はいくらかなど知りたい情報はたくさんあるのに、教えてくれるところがない、という声はよく聞きます。

司会者： そういう支援が進んでいるのは、他市ではどこですか。

参加者： どこもまだまだです。大津市の地域ビジネス支援室が少しリードしている感じです。

参加者： 創業を考えると、最初にしなければいけないのはマーケティングです。飲食店をやりたいのなら、そのマーケットはどれくらいが対象なのか。そういったデータは湖南市にはないですが、草津市には、そのようなデータが全部あって教えてもらえます。

司会者： 無料で教えてもらえるのですか。

参加者： 無料です。それがあるとビジネスプランも作成しやすい。そういうマーケティングリサーチは、個人ではできないので行政主導で作るといいと思います。

参加者： 商業ベースのデータは行政にとっても非常に大事だと思います。例えば、ソーシャルビジネスは今後、民間が担う部分が増えてきます。帝国データバンクの3,000社を調べると、その分野の起業はほとんどが女性で、従業員も女性が多い。ソーシャルビジネスは、きつい仕事で、やりがいとコミュニティ力の強い人でないと続けられません。このビジネスは今後もいろんな分野で増えてくると思います。ぜひ、情報の見える化をして後押しをしていただきたいと思います。

参加者： プラットフォームの一環でWEBサイトを小学校6年生ぐらいに合わせてつくって、ビジネスコンテストをやるのもいいと思います。この地域でこういうビジネスができるのではないかと、いうのを授業の一環として中学生ぐらいから意識させる。例えば、エステサロンのチラシをA4判の両面で作って、その成功報酬代金は3万円。そういうビジネスコンテストを湖南市内の中学校でやってみると、湖南市の10年後、20年後のイメージができると思います。それが大人になったときに湖南市で起業するきっかけになるといいと思います。

参加者： 県内の高校がビジネスプランコンテストに参加します。湖南省の高校も出てほしい。仕事のプランを作るのがどんな仕事でも大切なことだと思います。小学生からするのはもっと効果的です。

参加者： 自分のやったものがお金になるというのは、10年後絶対に生きてくると思います。

司会者： ほかに雇用を増やすことや、企業誘致や新種の企業のお話や、若い人たちが福祉の施設で働く場合のプラスアルファの支援などあればお聞かせください。

参加者： うちの事業所では、従業員の95%は女性で、主に30代で3歳ぐらいまでの子どもがいる人が多いです。だから、子どもが熱を出したら休む人が多いです。また、「103万円以下になるよう、シフトを組んでください」という人も多いです。仕事のやる気はあるけど、税金との兼ね合いで、時間調整して働いています。

30代で正社員になってくれたら、収入も上がり、子どもをもう一人産もうとか、産休や育児休暇も取りやすい環境になります。今、定年は65歳ですが、68歳まで延ばす話もありますし、定年70歳とした事業所もあります。今は、長く働いてくれる環境づくりを考えています。

参加者： 福祉施設の求人が出ていますが、単価の違いはありますか。

参加者： どんな職種でも同じ賃金なら、自宅から近いところを選ぶ人が多いです。100円でも時給を高くすれば、介護施設を選ぶ人が多いです。

参加者： 施設の従業員が、独立することはありますか。

参加者： 女性の場合は、いません。多くは、その職場か他の職場でグループ長を任される形になります。

参加者： 湖南省内で病児保育をしている保育園はありますか。

司会者： 市内ではありません。

参加者： 病児保育があれば、子どもが病気の時でも安心して働けます。栗東市には病児保育はありますか。

参加者： 事業者に委託されていると聞きました。

参加者： そういうのも取り組みとしては必要でしょうね。

参加者： 待機児童は、いないのですか。

司会者： 3年ぐらい前は待機児童0でしたが、年度途中の受け入れはできませんでした。今年度から、子ども子育て支援新制度が始まり、私立保育園も増えましたし、認定こども園も増やし、職場保育を緩和していく方向で3年間計画を立てて、待機児童0にもっていこうとしています。

参加者： 湖南市は、大津市、草津市に比べると、保育の面は充実していると思います。

参加者： 湖南市は、県内でも特に外国人が多い。ですから、インバウンドに焦点を当てて、猿飛佐助など日本独自のものに焦点を絞ってPRするとか、外国人労働者が日常生活で困らないように、市のかたで通訳を用意して、病院や学校などで困らないように手助けをするなどして、外国人が住みやすいまちを目指してはどうでしょうか。

参加者： 外国人さんの起業はありますか。

参加者： あります。

参加者： それは自分の国に関係のある起業ですか。

参加者： いえ、日本の社会にとけこんだもので、普通の飲食店とかです。

参加者： 滋賀県は、大きな工業地帯もあり交通網が発達しているので、関西圏であつても名古屋にも近い。滋賀県の給与所得は全国で上位なのは、このような背景にもあると思います。

県内では、甲賀市は新しく工業団地を開発しているし、栗東市はリチウム電池を扱う電池系の新しい企業が来ます。竜王は、アウトレットに行くまでの途中を開発している。つまり、工場、組織をもってこようという需要はあります。

ソーシャルメディアは別ですが、メディアでの起業や個人事業主の起業も重要ですが、そこに人がいてマーケットがなければ、抜本的な人口減少の対策として

は時間がかかります。湖南省としても、これから伸びる企業の誘致を考えているのでしょうか。

司会者： 湖南省は交通の要所で国道1号線、8号線、名神高速道路もあり、新名神は草津や土山から利用できます。産業立地の担当から湖南省の産業立地の方向性を話してください。

参加者： 湖南省は、医薬品、医療系の産業の誘致や、宇宙産業なども視野に入れてやっていきたい。中小企業の力を結集して一つの製作品を作る、また、大企業を誘致することで、協力会社も引っ張ってきて、従業員さんの移住や地域の雇用も増やしたいと考えています。

また、内陸型の国際総合物流ターミナルという構想を5年ぐらい検討しています。それは、湖南省に通関保税の役所を持って来て、そこを通ったらそこからは国外ですよ、という形にして、そのまま港まで輸送していきます。要は港まで持っていつている間のリードタイムや運搬コストを港の会社に渡してしまうということで、そこでリスクを離してしまうことができるということです。

司会者： 地の利を生かしたポテンシャルをもっと出していきたいというところですね。

参加者： 滋賀県の周辺地域の状況は大きく変わってきています。京都も京都縦貫道路が整備されて、新名神も滋賀県の南側を通過しています。今までは交通の要所でしたが、今後、そうでなくなる可能性もあります。そこに危機感をどれだけ持てるのか。気づいたときに手を打ったのでは遅いので、今から考えながら動いていく必要があるのかなと思っています。

参加者： 輸送費の増加や労働条件の見直しによるコスト増が、企業のネックになっています。そこで、大企業は現地化を進めて、生産拠点があるところでサプライヤーを周りで探して手を組んで、輸送コストを抑えます。大企業の工場を湖南省に誘致すれば、中小企業は活性化するのではないかと、思います。

先ほどの宇宙産業の話は、大阪の町工場のような力があれば大きなプロジェクトもいいのですが、湖南省の中小企業はまだそこまでの力はない。まずは中小企業の力を強くしていかなくてはいけない。

派遣法も改正されて外国人労働者がますます多くなるでしょう。それはストロングポイントと受け取って、外国人が人口増加の起爆剤的なものになればいいと思います。確かに、大企業の一つの工場で雇用する人数は500や600人の数字だとしても、それを取り巻く中小企業のサプライヤーや派遣労働者を含む企業さん

のことを考えたら、何千という数字が出てくるので、そこには注力していただきたいと思います。

参加者： 外国人が多い理由はなんですか。

参加者： 工業団地が古くからあるところに特に多く住んでおられます。

参加者： それ以外にないですか。

参加者： それは、湖南工業団地という内陸型の工業団地がありまして、その向かい側に職住近接という形で社宅を造りました。ところが、企業が持ち家政策をとって空いたので、そこに人材派遣会社が入ってきました。そのときに県の外渡航が改正されてたくさんの外国人が入られました。そのときのなごりが残っていて、ここを拠点に県内とか遠く愛知まで勤務しています。

参加者： それは、民間か市のどちらが入れたのですか。

参加者： 市はしてないです。湖南省の外国人の生活支援は湖南省国際協会がしていて、私は約5年間ボランティアを行っています。80%ぐらいはブラジル人です。ブラジル人が多い理由は岩根というところに、ポルトガル語が通じるスーパーがあって、その階にポルトガル語が通じる美容室とピザ屋とメガネ屋さんがあります。

参加者： 聞くと、静岡の浜松も同様に、ポルトガル語が通じるので、ここに住んで外に出るらしいです。

参加者： 外国人の起業もそういうところからきているのですね。そこでコミュニティができるのですね。

参加者： ポルトガル語が通じるところが湖南省にはたくさんあるので、起業しやすい。

参加者： 市としては悩ましいですね。

司会者： 青年会議所さんは、湖南、甲賀地域でまちづくりをやってもらっていますが、新しい取り組みなどあれば、話してください。

参加者： 昨年、東海道の石部宿から土山宿まで30キロのウォーキングをしたら、県

外から多くの方が参加されました。こういう地域資源を用いたイベントで地域の魅力を発信していくのもいいと思います。

司会者： 観光資源の開発ということで、青年会議所さんに考えていただいています。

参加者： 青年会議所には湖南省出身者が多いので、湖南省と青年会議所を連結させてまちづくりをしていきたいと考えています。

参加者： 青年会議所さんも素晴らしい活動をしておられると思いますが、湖南省は地域アイデンティティが乏しい。各種団体がそれぞれの思いで、まちを盛り立てるイベントをしています。そこに、統一のコンセプトがあるのでしょうか。ベクトルがしっかり向かないことには、物事は動かない。もう少し、どこかが統括をして集約をして、投じている予算も集約して、いいところを掛け合わせて、本当に県外にまたは市外に誇れる大きなイベントをいくつか細分化させて取り組むべきではないかと思います。イベントが多すぎてかけもちをしている部分もあります。いろんな意見を戦わせて、一つの方向に向かうということができれば、大きく変わるのかなと思います。

今度、観光の分野では、政府が8億円を投じて、16億円の経済効果を狙うというのをニュースで見たようは気がします。滋賀県としては半額をもって、外国人の観光客を県に引き込む導線をつくってくれているのに関わらず、それに対するおもてなしが滋賀県の中でどこもできてないという状況です。

今を好機ととられて、観光としてもおもてなしができる体制、仕組みを近々対応していくことで、滋賀県が観光立県として発達することは可能となると思います。

参加者： 今後、東京オリンピックがあっても外国人のかたが関西まで来られるかどうかは微妙ですが、そういったものに乗っていくのは必要かと思います。

参加者： ホテル不足の部分から人が流れているというのがもともとの流れなので、京都、大阪は高い、泊まる場所がないという人の流れですから、湖南省も何かできればと思います。

参加者： イベントに来られる県外の割合はどれくらいですか。

参加者： 把握できていません。

参加者： 地元が好きで地元から集まった可能性もあるし、湖南省に来たくて来たかたもあると思う。2060年に目指すのは、イベントなどで1回足を運んでもらって、湖南省はこんなまちだ、面白いことをやっている、と思って湖南省が好きになってくれたらいい。

司会者： そういう発信は必要だと思います。

参加者： 私はこにゃん市を湖南省のイメージとして売ったらどうかと思います。ネコといたらこにゃん市だというのもいいと思います。

湖南省は滞在型ではなく、日帰りの都市型観光があっていると思います。ですから、コンセプトを決めて、ネコといたらこにゃん市といったイメージでお客さんをお呼んだかたが、永続性があると思います。ネコの島がありましたね。

参加者： 東北のかたに。

参加者： そうなの大事です。ネコサミットのついでに善光寺を見ていくでもいいと思います。そうやって、湖南省のいいところを生かすイメージ戦略が大切だと思います。

参加者： こにゃん市はかなりネームバリューがあると思います。

参加者： 最近になって知りましたが、露出の仕方が必要だし、お金をかけて専門的に売り出すことをやってもいいと思います。

参加者： 都市のイメージは大事だと思う。

参加者： ネコを大事にする湖南省。

参加者： こにゃん市としてのイメージでいくなら、ご飯を食べに行くところにも、喫煙ルームがあるようにネコと一緒に食べられるとか。

参加者： 何かで売るといいと思います。猿飛佐助でもいいと思います。

参加者： それをコーディネートできて、まとめられる人がいれば、これぞという出し方はマスコミの方が得意だと思います。

司会者： 湖南省には、3～4年前から地域おこし協力隊という制度があって、都会から来た若い人を定住、起業をさせるのが目的の制度です。それで、イタリアンレストランで働いていたかたが、農業をやりたい、と9月から来ています。湖南省ではどういう農業が可能なのか、何かいいアイデアがありますか。

参加者： 野菜ですか。

参加者： 野菜を思っておられます。

参加者： 僕も非農家で17年前に就農しました。17年前でしたら、水稲で1人1年間15ヘクタールあれば、1年間は食べていけました。今は、米価の下落が激しくて、野菜を作らなければいけなくなりました。でも、湖南省は、水稲が中心で野菜作りは難しい。イチゴをやっている人もいますが、食べていけるかなというところですよ。

野菜で下田ナスをつくっているが、ブランド化は難しい。私は水稲中心で市内の酒造さんと組んで山田錦の酒米を作っています。野菜で起業はきびしいと思います。

参加者： もともとは、他の自治体の議論では、新規就農者は意外に農業大学以外の傾向があり、新規就農者は住まいの問題は避けて通れない。空き家の対策事業に結びつけるためにも、市の方で家賃をもう少し安くして、新規就農者が住める環境をつくるのが大事だという議論がありました。

水稲は、水の問題があって、稲作をやるには決心がいるし、酪農は汚水の問題があって簡単にはいかない。野菜農家が就農しやすい。ただ、土の質があるので、そこに適した野菜をつくっていかないといけない。だから、自治体の中のどこでどんなものを作ればいいのかというマップと地質のデータも持っている必要があります。ただ、単に来て作ってください、では成り立たないだろうという議論がありました。

参加者： 個人で作っていても駄目？

参加者： 駄目ですよ。

参加者： 下田ナスもそうですが、部会もつくってブランドを立ち上げようということで、つくっています。

参加者： 組織だってしてないと難しいですか？

参加者： 生産量を確保しないといけないのでね。

参加者： 起業の支援や農業の話も聞きました。シルバー層は 60 歳を超えて定年退職をします。総務省の発表では退職金を受け取って 2,000 万ぐらい持っています。夫婦で 4,000 万の貯金がある。その方たちが持っている貯蓄は、起業する資金の絶好のいいターゲットかなと思います。湖南市は企業誘致の条例もない。大津市、竜王町、草津市、栗東市は一定期間固定資産を減免するという条例があります。そういうことを踏まえながら、市としてもいろんな方面から考えていきたいと思えます。

司会者： 本日は、大切な意見をいただき、これを参考に市としても戦略を考えていきたいと思えます。ありがとうございました。